

令和8年6月19日

各 位

公益財団法人 本多記念会
理事長 前田 正史

第24回（令和9年度）本多フロンティア賞受賞候補者の推薦依頼について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当財団はお陰をもちまして多方面のご協力とご援助により順調な進展を遂げ、創立69年目を迎えることができましたこと深く感謝申し上げます。

さて、当財団は、故本多光太郎先生の偉業を永く記念して、これまで「本多記念賞」及び「本多記念研究奨励賞」を贈呈して参りました。今回推薦依頼をお願いいたします「本多フロンティア賞」は第6回から、研究分野領域を広げ、金属材料などの無機材料、有機材料及びこれらの複合材料の研究において、学術面あるいは技術面において画期的な発見又は発明をした方に「本多フロンティア賞」を贈り、その功績を表彰することといたしました。

つきましては、第24回（令和9年度）の本多フロンティア賞受賞候補者を募集いたしますので、「募集要項」によりご推薦いただきたく、ご依頼申し上げます。

敬具

記

1 送付書類

第24回（令和9年度）本多フロンティア賞受賞候補者推薦書用紙（3枚綴） 1通

2 推薦締切期限

令和8年9月4日（金）厳守

3 推薦・応募書類の提出先（当財団事務局）

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

東北大学金属材料研究所内

公益財団法人 本多記念会

（電話）022-215-2868

4 お問い合わせ先

ご不明の点がございましたら上記事務局にご照会ください。（月～金曜 9～17時）

本多フロンティア賞受賞候補者募集要項

本多フロンティア賞受賞候補者の募集は、本多フロンティア賞規程に基づき、この要項により実施する。

1 賞の目的及び対象

理工学、特に金属材料などの無機材料、有機材料及びこれらの複合材料の3分野のいずれかの分野において、学術面あるいは技術面において画期的な発見又は発明を行った者を対象とする。

なお、団体は受賞対象としない。

2 褒賞金と件数

50万円（毎年2件を予定）

3 推薦者

理工系の大学、国公立研究機関、学会、関連の企業および当記念会の委嘱する個人。

なお、推薦者は、候補者を推薦するに当たり、過去の受賞者一覧（当記念会ホームページに掲載）を参考にして推薦するものとする。

4 推薦手続

本会所定の推薦書（記入は黒色で）正副各1通に、業績の根拠となる次の資料を添付して、本会に提出する。

主要業績リスト（30篇以内）	3通
主要業績別刷（主要業績リストに記載の業績の内5篇以内）	3通
または特許 3件以内	3通
その他参考となる資料	3通

※推薦書及び主要業績リストは片面での印刷とする

5 推薦締切期日

令和8年9月4日（金）

6 選考方法

理事会内に選考委員会を設けて、上記に示した対象3分野について選考し、理事会において受賞者を決定する。

7 受賞者発表及び授賞式の期日

令和9年2月23日（本多光太郎先生誕生日）に公表する。授賞式は5月又は6月。

8 提出書類の送付先、問い合わせ先

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

東北大学金属材料研究所内

公益財団法人本多記念会

（電話）022-215-2868

ホームページ <http://hondakinenkai.or.jp/>

（推薦書はホームページよりダウンロードすることができます）

第24回本多フロンティア賞
受賞候補者推薦書

受
付

No.

令和 年 月 日

推薦者(代表)

提出月日 令和 年 月 日

(ふりがな)

氏 名 印

候補者に対する関係

職業

所在地

電話 () _____

受 賞 候 補 者

(ふりがな)

(提出時)

氏 名 _____ 年 齡 _____ 歲

昭和 年 月 日生

二

現住所

電話 () _____

所属機関

役 職

$$\overline{\text{T}}$$

所在地

電話 ()

学 位

E メール

經歷

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

年 月

受賞の対象となる業績の題目	
---------------	--

受賞の対象となる業績の主な分野	金属などの無機材料、有機材料、これらの複合材料
-----------------	-------------------------

(いづれかに○を付して下さい)

受賞の対象となる業績の概要 (3、000字程度)

(研究の新規性、有用性、波及効果も記入のこと)

--

--

参 考 事 項（賞・特許など）

本多フロンティア賞受賞者一覧

回	年 月 日	受 賞 者	受 賞 対 象 業 績	選 考 委 員	
				委 員 長	委員数
1	1 6 . 5 . 1 4	飯 島 澄 男	カーボンナノチューブの発見	佐久間 健 人	5 名
2	1 7 . 5 . 1 3	吉 沢 克 仁	ナノ結晶化による軟磁性材料の開拓	佐久間 健 人	7 名
3	1 8 . 5 . 1 2	一 色 実 細 野 秀 雄	金属の高純度化プロセスの開発 ナノ構造を制御・活用した電子活性透明酸化物材料の機能開拓	佐久間 健 人	7 名
4	1 9 . 5 . 1 1	石 田 清 仁	マイクロ組織設計による先端材料の開発	鈴 木 雄 一	5 名
5	2 0 . 5 . 9	青 木 清 蔡 安 邦	耐水素脆化性に優れた非 Pd 系水素透過合金の開発 準結晶合金の創製と準結晶に関する物質科学の確立	花 田 修 治	5 名
6	2 1 . 5 . 8	高 木 英 典 宝 野 和 博	遷移金属酸化物における相関電子科学の発展と機能開拓への展開 金属材料のナノ組織と特性に関する研究	太 田 英 二	7 名
7	2 2 . 5 . 1 4	幾 原 雄 一	セラミックス粒界超構造の計測と粒界・転位制御材料の創出	和 田 仁	7 名
8	2 3 . 7 . 1	川 崎 雅 司	酸化物界面の原子レベル制御による新光電子機能の開拓	高 田 雅 介	7 名
9	2 4 . 5 . 3 0	森 博太郎	電子顕微鏡その場観察法による物質極微プロセスの解明	青 木 清	7 名
1 0	2 5 . 5 . 3 1	河 村 能 人 堀 田 善 治	長周期積層構造型マグネシウム合金の開発 巨大ひずみ加工による高性能材料の創製	牧 島 亮 男	7 名
1 1	2 6 . 5 . 2 9	高 橋 隆 津 崎 兼 彰	光電子分光法による量子物質の電子構造と物性発現機構の解明 マイクロ組織制御による鉄鋼材料の高性能化	川 崎 雅 司	7 名
1 2	2 7 . 5 . 2 9	岩 佐 義 宏 藤 井 秀 樹	電気二重層を利用した高密度 2 次元電子系の創製と電界制御機能 ユビキタス元素を活用した新チタン合金群の開発と市場創出	森 博太郎	9 名
1 3	2 8 . 5 . 2 7	岡 部 徹 富 永 淳 二	レアメタルの新製錬・新リサイクル技術の発明と開発 低消費電力型超格子相変化メモリの開発と、そのトポロジカル物性の発見	中 嶋 英 雄	1 0 名

14	29. 5. 29	齊藤英治 貝沼亮介	スピン流物性科学の開拓 マルテンサイト変態の基礎研究および新 型形状記憶合金の発明	西田 稔	10名
15	30. 5. 29	小池 淳一 田中 功	先端半導体デバイスにおける高信頼性配 線材料の開発と自己形成拡散バリア層の 発明 第一原理計算の材料科学への応用と新材 料探索	浅野 秀文	10名
16	令和. 5. 31	乾 晴行 新田 淳作	ナノ・メゾ構造を制御した先進構造材料の 創製 スピン軌道相互作用を用いたスピントロ ニクスの開拓	古原 忠	10名
17	2. 11. 6	有馬 孝尚 戸田 裕之	磁気対称性に基づく非相反物質機能の開 拓 シンクロトロン放射光 CT を利用した 3D/4D 材料科学の創成	神谷 利夫	10名
18	3. 11. 26	折茂 慎一 中野 貴由	水素化物の新たな機能開拓とエネルギー デバイスへの応用 金属材料学を基軸とした骨基質配向化機 構解明と制御法の確立	木村 薫	10名
19	4. 5. 27	辻 伸泰 湯浅 新治	バルクナノメタルの創製と組織・力学特性 に関する研究 酸化マグネシウム磁気トンネル接合の開 発と応用	森 永正彦	10名
20	5. 5. 26	藤井 英俊 吉川 彰	硬度変化のない完全接合継手を実現する 新規摩擦接合法の開発 新規シンチレータ結晶の開発および社会 実装	横山 利彦	10名
21	6. 5. 24	常行 真司 松田 祐司	材料構造と非調和フォノン物性および電 子物性の非経験的予測手法の開発 量子スピン液体における創発準粒子の研究	毛利 哲夫	10名
22	7. 6. 5	淡路 智 山下 弘巳	実用超伝導材料の開発と強磁場応用 ナノ構造制御した触媒材料の開発と環境 調和型反応への応用	古原 忠	10名
23	8. 6. 4	及川 勝成 大場 史康	合金状態図の基礎研究と先端材料開発へ の展開 先進計算科学手法を駆使した無機電子材 料の機能設計と開拓	田中 功	10名